

子どもたちの自立を促し、不登校を克服する



鳥取市立岩倉小学校

岩倉小学校では「明るく元気に登校、笑顔で下校、そして明日また学校で」をスローガンに掲げ、子どもたちの心に響く指導を行うよう職員の意味統一をして、長期欠席者を減らしていきました。

信頼関係を築くための全職員共通理解項目

- 「学校は登校するところ」という意識の醸成
- 「まじめ・正直・素直がいちばん」が合い言葉
- 「師弟同行」の中での習慣づけ

「学校は登校するところ」

◆欠席0をめざして

- ・「欠席連絡受け票」を作成し、活用する。
保護者からの連絡を丁寧に受け、体調の聞き取りだけでなく、一歩踏み込んで尋ねることで、児童の実態把握や保護者の思いを知るきっかけにもなる。
- ・登校しぶりが見られる児童の情報を職員で共有し、励ましの声掛けをしたり、授業中ほめる場面をつくったりする。
「学校に来て良かった」と児童が満足感を得られるよう配慮する。
- ・登校して教室に入りづらい児童は、保健室を中間地点にして、心と体を整えて教室に向かっていく。
教室に送り出すことを基本とした指導を心がける。

「まじめ・正直・素直がいちばん」

◆自己有用感を育てる

- ・我慢強く取り組んでいる児童をタイムリーにほめることで成就感を味わわせ、困難を乗り越える力を身につけさせる。
周りの児童がその姿に感化され、集団がより高まる。
- ・高学年では、班長のリーダー性を育成する。そして、クラブ活動や委員会活動で、6年生を中心に学校のリーダーとして位置づける。
達成感を味わい、活動の意欲となる。
- ・履き物をそろえる、傘を巻いて立てる、トイレの水拭きをするなど指導の徹底を行う。
今では整然と並んでいる状態が当たり前になり、一つ一つの所作に心を込められるようになった。
しっとりとした生活環境が整い、掃除や朝読書が静寂の中で行われるなど生活全般に波及効果があった。

「師弟同行」の中での丁寧な見取り

◆社会性を育てる

- ・委員会や当番活動など、まず教師がやり方の手本を見せ、児童だけでできるようになるまで、その場について丁寧に指導を行う。
働くことや決められた仕事をやり切ることの気持ち良さを体験させ、習慣として身につけさせている。
- ・異学年交流を目的とした縦割りなかよし班活動を実施する。
体験活動を通して、より多くの友達や先生とつながる関係づくりを行う。



縦割り班活動「けん玉集会」

不登校対策には、欠席管理や小中学校間での情報の共有、早期対応を可能にするチームづくりなど、校内体制を整備することも大切ですが、同時に、児童に困難を克服する力やあきらめない態度を身につけさせたり、体験的な活動を通して人間関係力を高め、社会性を身につけさせたりする指導を取り入れていくことが大切です。